

# 令和4年度全国農業大学学校等プロジェクト発表要旨

農業大学校名 岐阜県農業大学校 学科名 野菜・果樹学科 学年 2年 氏名 すがはら かえで  
菅原 楓

## 1 課 題 防虫ネットによるモモの果実虫害の軽減

## 2 課題設定理由

昨年度、本校のモモの廃棄量の半数以上が虫害によるものであり、その中でも特に被害が大きかったものは、モモノゴマダラメイガであった。袋掛けをしても、食い破られてしまうため、その被害を完全に防ぐことが出来ない。この被害を減らすことが出来れば大幅な増収につながると考えた。そこで袋掛けに代わり果実と枝それぞれにネットを掛け、発生の多かったモモノゴマダラメイガの被害をどれだけ軽減できるかを調査した。

## 3 実施方法

(1) 供試品種 日川白鳳、白鳳、飛騨おとめ、川中島白桃 各品種 1 樹

(2) 区の構成

区	方法	サイズ	目合い
試験区1 (枝ネット)	結果枝全体を被覆	170 cm×88 cm	1mm
試験区2 (実ネット)	果実1個毎に被覆	15 cm×20 cm	1mm以下
対照区 (果実袋)	果実1個毎に被覆	20 cm×25 cm	—

枝ネット：すっぽりネット 筒状なので片方を縫って使用。入口を紐で縛る。

実ネット：メッシュバック防虫ネット 巾着タイプで、入り口を蝶々結びにする。

(3) 調査項目

虫害果率（収穫時、品種毎に全果調査）

## 4 結果

試験区1は、4品種中3品種で虫害果率が0%となった。

「飛騨おとめ」は一枝に虫害が発生した。各品種の合計虫害果率は対照区11.0%に対して試験区1は3.8%であった。

・1果当たりの作業時間 試験区1 約14秒 試験区2 約41秒 対照区 約44秒

試験区1は、対照区に比べ作業時間は1/3になった。

・1果当たりの経費 試験区1 18.1円 試験区2 35.0円 対照区 4.6円

ネットの耐用年数5年とした場合 試験区1 43千円/年 試験区2 84千円/年

5年間使用すると、試験区1は対照区の55千円/年よりも経費が抑えられる。

## 5 考察

試験区1（結果枝全体を被覆する方法）は、一部で虫害の発生や色むらや傷などの品質低下が見られたものの虫害被害を軽減することができた。

なお、虫害は、ネットの被覆時にすでに害虫の産卵後であったためと考えられ、防除後に直ちにネットを被覆することで対応できる。また、色むらや傷などの品質低下は、光反射シートの利用による着色向上や剪定を工夫することで対応できるため、普及性はあると考える。

表1 品種ごとの虫害果率

	日川白鳳	白鳳	飛騨おとめ	川中島白桃
試験区1	0%	0%	17.9%	0%
試験区2	5.9%	7.1%	41.7%	15.4%
対照区	4.6%	17.8%	14.2%	12.9%